

2023年2月24日 Vol.209

初日寄らずの1-2月IPO銘柄

大発会こそ穏健なスタートとなった株式相場ですが、直近はTOPIXが一時的に2000ポイント台に乗せるなど戻り相場の展開。しかしながら戻るとまた売り物が待っているような上値の重い展開が見られます。こうした中で今年のIPOがスタート。1月26日のテクノロジーズ(5248・G)に続き2月22日にはプライム・ストラテジー(5250・S)が上場していますが、いずれの銘柄も初日には寄らずにスタートしています。さぞやIPO市場がホットなのかと思いきや、昨年のIPO銘柄には上場後に低迷している銘柄も結構多いとの印象ですのでややイレギュラーな初値形成の動きかと思われます。

昨年のIPOの銘柄数は2月に7銘柄、3月に8銘柄、合計15銘柄でしたが今年は1-3月分として11銘柄が予定されており、一昨年をピークにしたIPO数の減少傾向が昨年に続き今年も想定されそうな状況となっています。昨年のIPOは2銘柄続けて初値が公開価格を下回っていましたが、今年はIPO銘柄の減少からややイレギュラーな初値形成となり買い物を集めた初日には寄らず2日目に寄り付くという状況です。

ITソリューション事業を展開するテクノロジー社については初値こそ公開価格1000円に対して3.65倍にあたる3650円で2日目に寄り付き高値は4000円までありましたが、その後は下降トレンドを描き2月20日には安値2205円まで売られました。前1月期の売上高10.5億円に対して1.5億円の予想経常利益の企業の初値時の時価総額は103億円でしたので単純に言うと割高感があったかと思われるほか、投資家の選別色が一段と強まり銘柄毎に二極化が続いている点と基本的に需給悪が続いているとの市場環境が影響して初値形成時の上値追いの熱が冷めての調整です。

IPO市場には機械的に初値を買おうという投資家もお見えかと思しますのでIPO銘柄が減っている中で需給が良くなっているとも思われますが、初日に寄らずに終えた超高速CMS実行環境「KUSANAGI」を中心とした製品開発を行う高収益AI企業であるプライム・ストラテジーについては今11月期予想売上高経常利益率36%の高収益企業で、これもややイレギュラーな初値、その後の高値形成となる可能性が考えられるものの、IR活動によって事業内容がより具体的に理解されれば長期スタンスでは投資家に支持されてリスクテイクされる要素を秘めています。

直近IPO銘柄には公開価格を下回ったりしているケースも見られますが、中にはIPO後に人気化した銘柄もあり、その人気化した銘柄はそれぞれに特色のあるビジネス展開を見せています。収益性もさることながらビジネス内容の本質的な価値を見極めながらのIPO銘柄投資が今年も求められているようです。3月は今のところ22日から30日までグロース市場への上場8銘柄を中心に9銘柄のIPOが予定されていますが、果たしてどのような展開になるのか皆様とともに見守ることに致します。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)